

2011年2月2日

関係各位

野村ホールディングス株式会社
コード番号 8604
東証・大証・名証第一部

野村ホールディングス、2011年3月期第3四半期の連結決算を発表

野村ホールディングス株式会社(執行役社長兼 CEO:渡部賢一)は、本日、2011年3月期第3四半期(2010年10-12月、以下「当四半期」)の連結決算を発表した。

当四半期の収益合計(金融費用控除後)は2,959億円(前四半期比7%増、前年同期比8%増)、税前利益は278億円(同29%増、55%増)、同社に帰属する当期純利益は134億円(同13倍、31%増)となった。

同社執行役社長兼 CEOの渡部賢一は、以下のとおりコメントした。

「第3四半期では、営業、アセット・マネジメント、ホールセールの一部門で前四半期に対して増収増益となった。営業部門では株式、投資信託の総募集買付額が伸び、顧客資産残高も増加した。アセット・マネジメント部門では資金流入が継続し運用資産額が増加した。ホールセール部門については、グローバル・マーケットでは顧客フロー・ビジネスからの収益が増大する一方、米国ビジネスが拡大したことなどで収益の分散化も進んだ。インベストメント・バンキングでは増収となるとともに、グローバル・マーケットとの連携による案件も生まれてきた。国内外の引受、M&A、ソリューションの各ビジネス分野で大型案件をいくつか執行できたが、これは先行投資の一部が収穫期を迎えたことを示す。第4四半期も強固な財務基盤を維持しつつ、ビジネス・プラットフォーム拡充の成果を生かし、顧客ニーズに合致したビジネスを中心に収益の拡大を目指したい。」

2011年3月期第3四半期決算のポイント

- 2011年3月期第3四半期決算のハイライトは以下のとおり。

	2011年3月期 第3四半期	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	2,959 億円	+7%	+8%
税前利益	278 億円	+29%	+55%
純利益	134 億円	13 倍	+31%

- 収益合計、税前利益ともに、第1四半期から期を追って増加している。
- ビジネス・セグメントの税前利益合計は408億円。三部門すべてで税前黒字を計上した。
- 営業部門は収益合計が975億円で前四半期比11%の増収、税前利益は230億円で同1%の増益となった。株式と投資信託の募集買付がバランス良く伸び、顧客資産残高は72.3兆円に増加した。
- アセット・マネジメント部門は、投資信託を中心に運用資産残高が増加し、収益は214億円で前四半期比11%の増収、税前利益は70億円で同34%の増益となった。
- ホールセール部門の収益合計は1,722億円で前四半期比5%の増収、税前利益は108億円で同41%の増益となった。
 - グローバル・マーケットは、厳しい環境の中、全地域で顧客ビジネスを拡大。アジア、米国からの収益貢献も進み、前四半期比で2%の減収に留まった。
 - インベストメント・バンキングは、国内での大型IPOおよびPOビジネスに加え、海外からの収益貢献も大幅に伸長し、前四半期比64%の増収となった。
- 2010年12月末における速報値で、Tier 1比率は17.3%、Tier 1コモン比率は17.1%である。

2011年3月期第3四半期の各部門の状況

● 営業部門

収益合計(金融費用控除後)は975億円、税前利益は230億円であった。顧客のニーズに的確に応えるコンサルティング営業が定着し、主力商品でバランス良くビジネスを拡大することができた。中でも株式は内外株式の募集買付が好調に推移し、大型プライマリー案件によって資金導入も好調であった。また、投資信託では顧客の関心が高いハイ・イールド関連商品やエクイティ関連商品でビジネスを拡大した。資産純増2.1兆円に加えて市況の回復もあり、顧客資産残高は前四半期の68.1兆円から72.3兆円へと増加した。

	2011年3月期 第3四半期 (10億円)	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	97.5	+11%	△7%
税前利益	23.0	+1%	△35%

● アセット・マネジメント部門

収益合計(金融費用控除後)は214億円、税前利益は70億円であった。運用資産の増加に加え、海外の運用子会社でのパフォーマンス連動報酬が収益を押し上げた。公募株式投信を中心に新規の資金が流入し、運用資産残高は24.1兆円まで増加した。野村アセットマネジメントの公募投信のシェアは21.7%と前四半期比で拡大し、引き続き高い水準でのトップシェアを維持している。

商品のラインナップについては、アジアへ投資するファンドを拡充させた。投資顧問ビジネスでは海外投資家からの日本・アジア関連プロダクトの受託が好調に推移した。

	2011年3月期 第3四半期 (10億円)	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	21.4	+11%	+24%
税前利益	7.0	+34%	+71%

● ホールセール部門

収益合計(金融費用控除後)は 1,722 億円、税前利益は 108 億円となった。

インベストメント・バンキングでは株式引受業務(ECM)中心にビジネス環境が回復したが、債券市場では 10 月の良好なマーケット環境が一転、11 月にはアイルランドに始まった再度のソブリン・クライシス、12 月には米国の金利急上昇など、非常に厳しいマーケットであった。株式市場でも、エマージング・マーケットではボリュームが改善したものの、主要国では依然として低調な売買高であり、難しいトレーディング環境となった。ホールセール部門は、このような環境下でも引き続きグローバルにビジネスを拡大し、前四半期比で増収増益を達成した。

➤ グローバル・マーケットの収益合計(金融費用控除後)は 1,410 億円、税前利益は 132 億円となった。厳しい環境でありながら、顧客フローからのビジネスを拡大し、的確にリスクをコントロールすることにより、前四半期比で 2%の減収に留めることができた。

➤ インベストメント・バンキングのグロス収益(他部門への収益按分前)は 619 億円となった。国内リーグテーブルにおいて圧倒的なシェアを堅持し、海外でのビジネスも収益に貢献した。国内では東京電力、大塚ホールディングスといった大型 ECM 案件を獲得し、アジアでは重慶農村商業銀行 IPO(2010 年では中国 3 番目の規模)、欧州ではスペインの銀行であるバンコ・ビルバオ・ビスカヤ・アルヘンタリアのライツイシュー(2010 年の欧州ライツイシュー案件としては 2 番目に大型)といった案件を獲得した。日本の ECM の調達額が前年比で 10%近く減少したにも関わらず、2010 年のグローバルなリーグテーブルにおいて ECM では 9 位を堅持し、M&A では 4 ランクアップの 12 位となった。

	2011 年 3 月期 第 3 四半期 (10 億円)	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	172.2	+5%	△18%
税前利益	10.8	+41%	△78%

- 2010 年 12 月末における速報値で、自己資本比率は 24.9%、Tier 1 比率は 17.3%、Tier 1 コモン比率は 17.1%、2010 年 12 月末現在の B/S の資産合計は 33.3 兆円、株主資本は 2.1 兆円、グロスレバレッジは 16.2 倍、調整後レバレッジは 10.0 倍である。

以上

詳細につきましては、当社ホームページ(<http://www.nomuraholdings.com/jp/investor/>)にて掲載の決算短信および決算説明資料をご覧ください。また、本日(2月2日)午後6時30分より、決算説明テレフォン・カンファレンスを開催する予定です。この模様は、当社ホームページ(<http://www.nomura.com/jp/>)を通じてライブ配信いたします。

本資料は、米国会計基準による2011年3月期第3四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされております。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。本資料は、2010年12月31日現在のデータに基づき作成されております。なお、本資料で使用するデータ及び表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。